

# 千歳市市民協働推進会議議事録

会議名	市民協働推進会議（第7期 第12回）		
日時	令和2年9月15日（火） 18:00～19:05	場所	市役所第2庁舎 第5・6会議室
出席者	委員：10人 事務局：3人（市民協働推進課長、市民協働推進係長、市民協働推進係主事）		

議題	(1) 市提案型協働事業選考審査 【事業名】：オリジナルキャリア支援事業 【事業名】：文化財解説事業（キウス周堤墓群 現地ガイド）
決定事項	(1) 市提案型協働事業選考審査 事業名：オリジナルキャリア支援事業 補助金を交付すべき事業である旨市に報告する。なお、次の意見を附する。 イベント参加料を徴収し収入源を確保するなど、起業後のフォローアップも可能にする継続的な支援事業を実施してほしい。 空き店舗の活用や地域経済の活性化に繋がる起業支援になることを期待する。 事業名：文化財解説事業（キウス周堤墓群 現地ガイド） 補助金を交付すべき事業である旨市に報告する。なお、次の意見を附する。 世界遺産登録に向けて市民に史跡の魅力をPRし、ガイドの人材確保につなげてほしい。 周辺環境を踏まえたガイド体制を整え、ガイドと来訪者の双方にとって良い仕組みを構築することを期待する。

## 委員 事業申請者 実施担当課 事務局 附帯意見

<p>(1) 市提案型協働事業選考審査 【事業名】：オリジナルキャリア支援事業 &lt; 質疑応答 &gt; 2年間の事業であるが、1年目にセミナーを受講して起業までたどり着いた場合、その方は2年目もセミナーを受講することは可能か。 可能である。年8回の講座をすべて受講する必要はないので、1年目に受けていない講座があれば翌年度に受講できる。また、1年目に全講座を受講し、起業のファーストステージに到達したが、翌年度にレベルアップをしたいと考えている場合には、翌年度も個人面談やLINEでの個別相談を用意しているので、そちらで対応可能である。 起業後に経営難に陥ってしまう可能性がある。起業することだけではなく、その後の継続に対する支援が必要だと思うが、その点についてはどのようにお考えか。 市だけではノウハウに不足があることから、商工会議所で経営指導の助言を受けることや、札幌にある経済産業省の無料相談機関の利用を促していきたい。また、専門家の派遣や運用もできるようにしていきたい。 市としての経営継続の支援はお考えではないのか。 事業計画書の見直しの支援を行いたいと考えている。また、市では、商工会議所と連携して、商業支援セミナーを行っている。市は初級編を担当し、商工会議所は上級編を担当している。 たくさんのコンテンツや提案から、顧客の管理まで考えていて素晴らしいと思う。メンバー紹介で「B to B」や「B to C」という言葉があったがどのような意味か。 「B to B」は「Business to Business」の略で、企業から企業へのビジネスという意味である。「B to C」は「Business to Customer」の略で、企業からお客様へのビジネスという意味である。両方を経験</p>
---

しているメンバーが7人そろっているという紹介だった。

2年間の予算をつけているが、それ以降はどのようにお考えか。

3年目以降は、市民協働プロモーション事業に移行して、支援を継続していきたいと考えている。また、利用者から参加料やセミナー料を少しずついただくようにしていき、持続可能なものにしたい。

この事業は主に女性起業家を対象としているのか。

女性に限らず、男女ともに支援を受けることができるが、千歳市は転勤者が多いということや、女性はビジネスの知識を得られる機会が少ないということから、女性に積極的に利用していただきたいと思っている。

起業を考えている方が1万人近くいるとあるが、その男女比を教えてください。

比率までは把握していない。しかし、千歳は空港勤務の方や公務員が多いため、その配偶者など、起業してみたいと考えている方は多いのではないかと思います。

事業効果を考えた場合、スピード勝負になると思うが、女性をターゲットにしたほうが効果が出やすいとお考えか。

起業支援はすぐに結果が出るようなものではないので地道に継続的に支援を行いたい。

2年間で50名ほどが起業することを目標としているが、この数字は中心市街地での起業を意味しているのか。

そうではない。

市内どこでもよいのであれば、賑わいがばらけてしまい、まちの活性化につながりづらい。まちの活性化のためには、できるだけ中心市街地で起業することが望ましい。中心街の空き店舗の活用などに力を入れるのも一つの方法である。

昼に中心市街地で営業している店舗が少ないことが課題となっているので、少しでも改善できれば良いと思っている。起業する方には、空き店舗の情報や、空き店舗を利用するときに支給される補助金の情報を提供していく。

起業の定義は店舗を持つだけではない。場所や時間にとらわれないオンラインショップや、訪問でのリラクゼーションサービスなども起業に含まれる。いくつかのステップを経たうえで、最終的に中心市街地にお店を持つ方もいると思うが、この事業では0から1を目指す方を対象としており、その後のステップアップは、商工会議所の相談窓口を利用していきたい。その間のプロセスに対する相談には寄り添いながらサポートしていきたい。目標の50という数字は開業する店舗の数ではない。

人件費について、1時間1050円とあるが、1050円はどのように算出した金額なのか。

単価については、札幌の「リラコア」や苫小牧市の「じもじょき」の時給を参考にした。

#### 【事業名】: 文化財解説事業

##### < 質疑応答 >

今までに観光客や市民の方からキウス周堤墓群の現地ガイドを依頼されたことはあるか。

埋蔵文化財センターに依頼があった。

件数はどのくらいか。

年間10件弱ほどである。

現地ガイドは、4月から11月の9時から15時までとあるが、その間は現地ガイドが現地にはりついているということか。

そうである。もし世界遺産に登録されれば、現地ガイドが待機できる体制を作っていきたいと考えている。

世界文化遺産に登録されなかった場合はどのようにお考えか。

登録されなかった場合でも、キウス周堤墓群の価値自体に変わりはなく、国の史跡として重要なものであることから、市民の方に解説していく価値があるので、事業を実施していきたいと思っている。

北海道北東北の縄文遺跡群ということで16、17か所あるが、世界遺産登録時は、すべて一斉に登録

されるのか。または、1、2か所外される可能性もあるのか。

外される場合もある。

他の会議で、キウス周堤墓群が話題にあがった。その際、遺跡の真ん中に国道があることで、世界遺産登録から外されるのではないかという心配もあった。それについてはどのようにお考えか。

史跡としては、キウス周堤墓群が整備され一体化することが望ましいと考えている。一方で、周辺には地域住民の方が住んでおり、生活道路として利用している実態があることから、地域住民の理解を得る必要がある。また、市ではなく国が管理している道路のため、行動に移すことが難しいという側面もある。

ガイドがいればそれで良いと考えているのか。これからガイドだけ育成するといった取組では不安がある。例えば、三内丸山遺跡などは環境整備のほか、ボランティアガイドや体験学習に取り組みられているが、そのように展開していく必要はないのか。

総合的に整備していく必要はある。現在、整備基本計画の中で、どのように整備していくかを決めているところである。見学施設や見学路なども含めて、今後どのように整備していくか考えていきたいと思っている。